

【館山市】平成30年度地方創生推進交付金事業 「“海辺エリア”への人と資源の集約化によるまちづくり ～コンパクトシティによるまちづくり～」 効果検証データシート

地域資源である“海”を活かし、海辺エリア（海の玄関口＝交流拠点“渚の駅”たてやまから半径3km圏内）への資源の集約を進め、海辺エリアをまちの陸路・海路の拠点と目的とし、『海辺エリアのさらなる魅力向上』⇒『交流人口の増加』⇒『まちの賑わい創出』⇒『しごとの創出』⇒『人の流れ』の好循環の流れを生み、地域の稼ぐ力と地域価値の向上を図り、地域の再生・経済活性化により、人口減少の歯止めを目指す。

事業No.	事業概要	H30担当課	事業費	事務局案			総合計画審議会委員による意見 (事務局案について)
				KPI (重要業績評価指標)	事業の評価	今後の方針	
1	《景観計画策定事業》 ●景観資源を活かした観光振興に繋げるため、平成29年度～30年度の2か年をかけて、市内全域を対象とした景観計画を策定した	都市計画課	【執行額】 6,311,745円 【補助対象額】 6,311,745円 【交付金充当額】 3,155,872円	《KPI》 観光入込客数 【基準値】 (H27) 163万人 【目標値】 (R2) 205.6万人 【実績値】 (H30) 207.5万人 【達成率】 (実績/目標) 110.6% ※H30末時点での目標値 (187.6万人)に対する実績値 (207.5万人)の割合 【達成率】 104.5% ※5年間の増加分の目標値 (42.6万人)に対するH30末時点での増加分の実績値 (44.5万人)の割合	【内部評価】 ・非常に有効であった 【理由・説明】 ・策定作業について、当初の予定どおり平成30年度内に完了した。	【今後の方針】 ・事業の継続 【理由・説明】 ・景観計画の運用を定める景観条例を令和元年6月議会に上程し、令和元年11月の施行を予定している。	○賛成・良かった点 ●反対・良くなかった点 ☆改善策・前向きな提案 ◆疑問・質問 ○景観条例の策定・施行は大変有効。 ☆地域ごとの協働の計画を示していくべき。 ☆作りっぱなしにならないように、計画を実施する具体的検討に入ってほしい。 ☆駅西口を中心に魅力的な景観を作っていけたらよい。 ☆外国を模しただけではなく、館山ならではの味を活かした景観にしてほしい。 ◆事業の継続となっているが、今年度はどのような事業を行うのか。
	《景観形成事業》 ①シンボルロード美化事業 ●植栽管理業務委託 ・シンボルロード(館山駅西口広場等) ・鏡ヶ浦通り・北条海岸駐車場	建設課	【執行額】 ① 8,964,000円 ②12,722,400円 ③ 1,566,000円 ④49,244,387円 (合計) 72,496,787円 【補助対象額】 66,252,400円 (補助率:1/2) 【交付金充当額】 33,126,200円	【内部評価】 ・相当程度有効であった 【理由・説明】 ・シンボルロードや館山駅西口交通広場は、春先や夏の海水浴シーズンをはじめとする観光客が初めに館山市を感じることができる場所であり、植栽管理を実施することで観光客はもとより不特定多数の人の目にもとまり、多くの観光客が訪れるきっかけとすることができた。	【今後の方針】 ・事業の継続 【理由・説明】 ・館山市を代表する幹線市道で、海辺空間の景観の一部を形成していることから、引き続き植栽管理を実施することにより、美化に努めていく。	○リピーターの増加が期待される。 ☆来訪者の視線でどのように魅力発信すべきか考える。 ☆一部区間だけでなく、全市的目配りが必要。 ☆国道127号沿いの草刈り不足を市民から指摘される。	
	《景観形成事業》 ②フラワーライン美化事業 ●植栽管理業務委託 ・波左間・坂足工区 ・布沼工区 ・相浜工区	観光みなの課		【内部評価】 ・相当程度有効であった 【理由・説明】 ・フラワーラインはその名のとおり、四季を通じて花が楽しめることから、人気の観光スポットとなっている。 ・植栽を実施したことにより、多くの観光客が訪れるきっかけとすることができた。	【今後の方針】 ・事業の継続 【理由・説明】 ・フラワーラインは、館山市を含めた南房総地域の人気スポットとなっており、特に春先には多くの観光客を楽しませていることから、引き続き植栽を実施することにより、美化につとめていく。	○リピーターの増加が期待される。 ☆周辺地域の美化や道路整備と合わせ向上させること。 ☆フラワーラインは工区により管理の状態に差があるので、チェックの必要あり。	

【館山市】平成30年度地方創生推進交付金事業 「“海辺エリア”への人と資源の集約化によるまちづくり ～コンパクトシティによるまちづくり～」 効果検証データシート

地域資源である“海”を活かし、海辺エリア（海の玄関口＝交流拠点“渚の駅”たてやまから半径3km圏内）への資源の集約を進め、海辺エリアをまちの陸路・海路の拠点と目的とし、『海辺エリアのさらなる魅力向上』⇒『交流人口の増加』⇒『まちの賑わい創出』⇒『しごとの創出』⇒『人の流れ』の好循環の流れを生み、地域の稼ぐ力と地域価値の向上を図り、地域の再生・経済活性化により、人口減少の歯止めを目指す。

事業No.	事業概要	H30担当課	事業費	事務局案			総合計画審議会委員による意見 (事務局案について)
				KPI (重要業績評価指標)	事業の評価	今後の方針	○賛成・良かった点 ●反対・良くなかった点 ☆改善策・前向きな提案 ◆疑問・質問
2	《景観形成事業》 ③北条海岸無料監視所等改修（設計） ●平成31年度に施設機能を強化する改修工事を行うための設計業務を委託により実施した。	観光みなと課			【内部評価】 ・相当程度有効であった 【理由・説明】 ・建築物の各部位が耐用年数を迎える前に修繕・更新を行う（予防保全）ことで、施設利用者が安全で安心して施設を利用することができるのと同時に、建築物の目標とする耐用年数まで使用できるようにする。また、監視所及び休憩所として利便性を向上させることにより、人の流れを生み出すことにも繋がることから、次年度の工事に向けて設計を実施した。	【今後の方針】 ・事業の継続 【理由・説明】 ・設計に基づき、工事を実施していく。	☆北条海岸を市民の憩いの場として、居心地の良い場にしてほしい。
	《景観形成事業》 ④渚の駅たてやま施設改修事業（工事監理・施設改修工事） ●「南欧風のまちづくり」にマッチした景観形成のため、“渚の駅”たてやまの外壁・屋根等改修工事に係る設計及び第2期工事・監理業務を行うとともに、全国同種施設との差別化を図るために、名誉駅長「さかなクン」のイラストペイント（壁面）による外装工事を実施した。	観光みなと課		【内部評価】 ・非常に有効であった 【理由・説明】 ・“渚の駅”たてやまは、地方創生交付金事業の中で、「海辺エリアの魅力向上」の中核施設として位置づけており、今回の外壁を含む各種工事によりリニューアルされ、集客施設として魅力ある施設となった。 ・“渚の駅”たてやま名誉駅長である「さかなクン」を前面に出すため、さかなクンのイラストを外壁に装飾することで、来訪者に対し施設のインパクトを与え、全国の同様の施設と差別化を図ることで、他の地域にない「オンリーワン」の施設化が図られた。 ・また、さかなクンギャラリーの改修により、部屋の見栄えがよくなり、目玉となる展示が増えたことにより来館者の満足度向上が図られた。	【今後の方針】 ・事業の継続 【理由・説明】 ・“渚の駅”たてやまの前身である千葉県立安房博物館は昭和48年に、また、収蔵庫棟は平成9年に増築されていることから、建物の老朽化により、今後も様々なメンテナンスが必要になってくると想定している。	◆海辺の広場のミニ水族館は古く臭いも気になる。もう少し充実した魅力ある施設に改修してほしいが計画はあるか。 ◆来館者の満足度はどのように計ったのか。	

【館山市】平成30年度地方創生推進交付金事業 「“海辺エリア”への人と資源の集約化によるまちづくり ～コンパクトシティによるまちづくり～」 効果検証データシート

地域資源である“海”を活かし、海辺エリア（海の玄関口＝交流拠点“渚の駅”たてやまから半径3km圏内）への資源の集約を進め、海辺エリアをまちの陸路・海路の拠点と目的とし、『海辺エリアのさらなる魅力向上』⇒『交流人口の増加』⇒『まちの賑わい創出』⇒『しごとの創出』⇒『人の流れ』の好循環の流れを生み、地域の稼ぐ力と地域価値の向上を図り、地域の再生・経済活性化により、人口減少の歯止めを目指す。

事業No.	事業概要	H30担当課	事業費	事務局案			総合計画審議会委員による意見 (事務局案について)
				KPI (重要業績評価指標)	事業の評価	今後の方針	○賛成・良かった点 ●反対・良くなかった点 ☆改善策・前向きな提案 ◆疑問・質問
3	<p>《交流拠点施設機能強化事業》</p> <p>渚の駅たてやま施設機能強化事業 ●“渚の駅”たてやまにある「さかなクンギャラリー」の充実を図るとともに、施設パンフレットの刷新、館山の魅力である“海”をPRするためのガイドブックを新たに作成した。</p>	観光みなと課	<p>【執行額】 2,095,200円</p> <p>【補助対象額】 1,994,000円</p> <p>【交付金充当額】 997,000円</p>	<p>【内部評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相当程度有効であった <p>【理由・説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイドブックは、人気のVR体験と連携して楽しんでもらうことにより、館山の海をより深く知ってもらい、好きになってもらい、リピーターになってもらうための情報発信機能が強化できた。また、市内の小中学校にもガイドブックの配布を行い、海の近くに住んでいても、普段あまり海と接する機会の少ない子どもに地元の海を知ってもらう機会を提供できた。 ・施設パンフレットは周辺の道の駅や宿泊施設などに設置してもらっており、まず手に取ってもらえるようさかなクンのイラストを目立つ位置に配置した。また、館内で手にとってもらった方には、施設の巡り順がわかるような配置とすることで、わかりやすくし、満足度向上を図った。 	<p>【今後の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業の継続 <p>【理由・説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き各事業の実施により施設を充実させ、集客施設として魅力あるオンリーワンの施設とすることで、交流人口の増加を図る。 	<p>☆幅広い年齢層を対象として、様々な興味を抱かせる事業を行うべき。</p> <p>☆海辺の広場はふれあいのできる機能を充実させ、海での遊びへの入口的な場所としていけると良い。</p> <p>☆KPIは観光入込客数より、地域の売り上げに直結する宿泊客数（目標値50万人）を重視してほしい。</p> <p>☆評価に数値の観点が必要。交流人口をどう数値化するか。</p> <p>●あれだけの広々としたスペースがどうして上手に利用できないのか残念。若くてセンスのある人材をコーディネーターとして登用できないか。</p>	

【館山市】平成30年度地方創生推進交付金事業 「“海辺エリア”への人と資源の集約化によるまちづくり ～コンパクトシティによるまちづくり～」 効果検証データシート

地域資源である“海”を活かし、海辺エリア（海の玄関口＝交流拠点“渚の駅”たてやまから半径3km圏内）への資源の集約を進め、海辺エリアをまちの陸路・海路の拠点と目的とし、『海辺エリアのさらなる魅力向上』⇒『交流人口の増加』⇒『まちの賑わい創出』⇒『しごとの創出』⇒『人の流れ』の好循環の流れを生み、地域の稼ぐ力と地域価値の向上を図り、地域の再生・経済活性化により、人口減少の歯止めを目指す。

事業No.	事業概要	H30担当課	事業費	事務局案			総合計画審議会委員による意見 (事務局案について)
				KPI (重要業績評価指標)	事業の評価	今後の方針	○賛成・良かった点 ●反対・良くなかった点 ☆改善策・前向きな提案 ◆疑問・質問
4	《海辺の環境改善事業》 ①海岸利用者マナー向上対策 ●非常勤職員により、「安心・安全な館山の海水浴場の確保に関する条例」の周知及び禁止行為の指導勧告等を実施した。 ●海水浴場のマナー向上のための啓発チラシ及び館山海浜ルールブックを作成・印刷した。	観光みなと課	【執行額】 ①1,077,800円 ②8,218,859円 ③8,514,659円 (合計) 17,811,318円 【補助対象額】 17,779,519円	【内部評価】 ・非常に有効であった 【理由・説明】 ・館山市の魅力の一つである海岸線一帯を美しく維持することにより観光振興、地域活性化が図られた。 ・市内の6ヶ所で開設している海水浴場において、利用者が素足になっても安心・安全に楽しんでいただけるような海岸環境が保たれた。 ・夏季の海水浴場開設期間中は、早い時間帯に駐車場がほぼ満車となり、来場者も飽和状態となるが、交通誘導員の配置および駐車柵の設置により駐車方法のマナーの向上と歩行者の安全が確保された。 ・飽和状態となった際には、交通誘導員により状況に応じて車両入場制限を行うことにより、大きな混乱を回避することができた。	【今後の方針】 ・事業の継続 【理由・説明】 ・南房総国定公園にも指定される3.4.3kmの変化に富んだ海岸線は、マリンスポーツや海水浴の適地とされ、館山市の重要な観光資源の一つである。この観光資源を本事業により適切に維持管理することにより、来訪者の増加に繋げていく。 ・2019年度も引き続き海岸清掃活動を実施することで、館山市の魅力を高めていく。 ・沖ノ島は、海の生き物と身近に触れ合うことができ、貴重な自然が残る館山市の「宝」とも言える場所である。地域外からも多くの来訪がある人気スポットに急成長した反面、駐車場不足やごみの放置などの問題が発生していることから、本事業により来訪者のマナー向上を図っていく。 ・沖ノ島環境保全協力金については、より多くの方に賛同していただけるよう、改善を図る。	○改善事業に着手したことは大いに評価できる。 ☆北条海岸の水上バイク利用客のマナー啓発にもっと力を入れてほしい。	
	《海辺の環境改善事業》 ②海岸美化対策 ●ビーチスポーツや夏の海水浴の適地となっている館山市の良好な海岸環境を保つため、非常勤職員による通年の海岸清掃に取り組んだ。	観光みなと課	【交付金充当額】 8,889,760円			○改善事業に着手したことは大いに評価できる。	
	《海辺の環境改善事業》 ③沖ノ島環境保全事業 ●来訪者の利便性向上のため、沖ノ島進入路の整地及び駐車区画の設置に必要な資材を購入するとともに、設置工事を実施した。 ●「沖ノ島」の来訪者が安全・快適に過ごせるよう、警備業務を委託により実施した。 ●「沖ノ島」の環境保全に繋げるため、平成29年度からスタートした環境保全協力金の受付業務を委託により実施した。	観光みなと課				○改善事業に着手したことは大いに評価できる。 ○継続して整備をしてほしい。 ☆沖ノ島の駐車場不足に関して、館山港付近の遊休地を利用して、沖ノ島まで散策道としてはどうか。 ◆観光資源である海での収益化をどう考えているのか。費用対効果はどうか。国・県ともっと交渉できないか。協力金でまかなえるのか。	

【館山市】平成30年度地方創生推進交付金事業 「“海辺エリア”への人と資源の集約化によるまちづくり ～コンパクトシティによるまちづくり～」 効果検証データシート

地域資源である“海”を活かし、海辺エリア（海の玄関口＝交流拠点“渚の駅”たてやまから半径3km圏内）への資源の集約を進め、海辺エリアをまちの陸路・海路の拠点と目的：し、『海辺エリアのさらなる魅力向上』⇒『交流人口の増加』⇒『まちの賑わい創出』⇒『しごとの創出』⇒『人の流れ』の好循環の流れを生み、地域の稼ぐ力と地域価値の向上を図り、地域の再生・経済活性化により、人口減少の歯止めを目指す。

事業No.	事業概要	H30担当課	事業費	事務局案			総合計画審議会委員による意見 (事務局案について)
				KPI (重要業績評価指標)	事業の評価	今後の方針	○賛成・良かった点 ●反対・良くなかった点 ☆改善策・前向きな提案 ◆疑問・質問
5	<p>《城山公園機能強化事業》</p> <p>①利便性向上 ●海辺エリアの都市公園（城山公園）山頂の急勾配な園路の先にある八犬伝博物館（館山城）への来訪者輸送対策として導入したシャトルカーの専用ドライバーを非常勤職員が務め、利便性確保や施設入場者の増加、さらには雇用の創出を図った。 ●高齢者の就業機会の確保や提供及び職員の事務負担軽減を図るため、城山公園駐車場使用料の収納業務をシルバー人材センターへの委託により実施した。</p> <p>②花のまちづくり ●市民・各種団体・行政協働による「花のまちづくり」の機運醸成に努め、「花のまち館山」のイメージ定着や観光地としての魅力向上を図るため、ガーデニングコンテスト等を開催した。 ●市制施行80周年記念「恋華めぐり」において、NPO法人地域活性化支援センターへの委託により、華道家の假屋崎省吾氏を講師とするトークイベントを実施し、市民や来場者に対する「花のまち館山」の更なる機運醸成等を図った。</p>	都市計画課	<p>【執行額】 5,563,276円</p> <p>【補助対象額】 5,563,276円</p> <p>【交付金充当額】 2,781,638円</p>		<p>【内部評価】 ・非常に有効であった</p> <p>【理由・説明】 ・城山公園シャトルカー運行は好評を得ており、来訪者の増加につながっている。 ・駐車場使用料徴収業務では、忍者衣装を着用することにより、城山の歴史的な雰囲気づくりを担った。 ・継続して実施しているガーデニングコンテストも第6回を数え、定着化してきており、「花のまちづくり」の機運醸成につながっている。 ・「恋華めぐり」では、假屋崎省吾氏によるトークイベント・館山の花を使用した生け花の実演が行われ、「花のまち館山」としてのイメージ向上が図られた。</p>	<p>【今後の方針】 ・事業の継続</p> <p>【理由・説明】 ・シャトルカーの運行を継続し、城山公園の歴史的・文化的な雰囲気づくりに努めていく。 ・今後も「花のまちづくり」の機運醸成に努め、「花のまち館山」としてのイメージ定着を図り、来訪者の増加を目指す。</p>	<p>○シャトルカーは城山のバリアフリー化に大いに役立っている。 ☆シャトルカー運行はよい取組だが、忍者衣装や車のデザインは工夫が欲しかった（奇抜・イメージが暗い） ☆公園内の樹木・草花等の保守管理。 ☆ガーデニングコンテストをバイパスと国道410号の花壇作りに発展させられないか。 ☆城山に上っていく途中、博物館へ誘導する案内が少ない。せつかくの博物館なので、魅力的な施設として機能してほしい。雁月庵というすてきな茶室も定期的に活用してほしい。 ☆駐車場使用料の数値結果なども評価に入れてほしい。 ◆来客数の増加は、数値で示せるか。</p>

【館山市】平成30年度地方創生推進交付金事業 「“海辺エリア”への人と資源の集約化によるまちづくり ～コンパクトシティによるまちづくり～」 効果検証データシート

地域資源である“海”を活かし、海辺エリア（海の玄関口＝交流拠点“渚の駅”たてやまから半径3km圏内）への資源の集約を進め、海辺エリアをまちの陸路・海路の拠点と目的：し、『海辺エリアのさらなる魅力向上』⇒『交流人口の増加』⇒『まちの賑わい創出』⇒『しごとの創出』⇒『人の流れ』の好循環の流れを生み、地域の稼ぐ力と地域価値の向上を図り、地域の再生・経済活性化により、人口減少の歯止めを目指す。

事業No.	事業概要	H30担当課	事業費	事務局案			総合計画審議会委員による意見 (事務局案について)
				KPI (重要業績評価指標)	事業の評価	今後の方針	○賛成・良かった点 ●反対・良くなかった点 ☆改善策・前向きな提案 ◆疑問・質問
6	《航路利用促進事業》 ①東京～館山航路 利用者増加施策 ●航路を利用した交流人口の増加を図るため、客船等歓迎委員会への委託により、着地型旅行商品の造成・ファミトリップ、さかなクン活用の海路PR等を実施した。	観光みなと課	【執行額】 ①6,489,548円 ②5,636,520円 (合計) 12,126,068円 【補助対象額】 9,825,000円 (補助率：1/2) 【交付金充当額】 4,912,500円		【内部評価】 ・非常に有効であった 【理由・説明】 ・東海汽船㈱ 高速ジェット船春の季節運航における課題であった「東京～館山航路」の利用者増加を図るため、モニターツアーの実施や関東圏を中心とした各種メディアへの情報提供、新聞、雑誌等への記事掲載などプロモーション活動を強化したことより、本航路の乗下船の人数が1,150人（東海汽船㈱速報値：対前年比198%）となった。	【今後の方針】 ・事業の継続 【理由・説明】 ・平成30年度に実施したプロモーション強化事業が対前年度比198%と効果を上げたことから、本航路の認知度を更に向上させるため、継続したプロモーションを実施していく。 ・過去に実施したモニターツアーの検証結果を活用した着地型ツアー造成などを促進していくとともに、新たなモニターツアーの実施を企画していく。	○認知度も向上し、利用客も増加していることから、有効であった。 ○渋滞知らずの航路なので、定期的に運航できるとよい。 ☆乗船・下船時の交通アクセスが課題。レンタカーやレンタサイクル、シャトルバスなど、その後のフォローがあるとさらによい。 ☆費用対効果の検証が必要。 ☆観光客の多い時期にクルージングやジェット船を利用したツアーなど企画できないか。 ☆観光客が減る8月中下旬や秋に東海汽船との連携事業実施。 ☆サイクリストをターゲットにしてみてもは。（輸行袋入なら手数料無料） ●市内イベントとの日程調整は難しいのか？点のままではつながらない。 ◆往復切符は4日間有効だが、モニターツアーを除く利用客のうち、日帰り宿泊の割合。 ◆今後の増便・期間の延長等の計画はあるか。 ◆モニターツアーの効果検証はできているのか。
	《航路利用促進事業》 ②戦争遺跡活用事業（赤山地下壕跡） ●海上自衛隊館山航空基地のすぐ南側に所在し、年間3万8千人を超える入壕者の利便性確保を図るため、周辺整備工事を実施した。	スポーツ課		【内部評価】 ・相当程度有効であった 【理由・説明】 ・赤山地下壕跡の周辺環境が悪いため、景観にも配慮した整備工事を行い、入壕者の利便性向上を図った。	【今後の方針】 ・事業の継続 【理由・説明】 ・今後も、来壕者の安全を第一に、定期的な安全点検等の実施を行っていきたい。	●説明板の足元がぬかるみ近寄れない。 ◆相当程度有効にとどまっている理由と課題は何か。 ◆非常に有効になるためには、何が不足しているのか。 ◆今後の継続はどの部分か。 ◆赤山地下壕のトイレ整備に問題はないのか。	

【館山市】平成30年度地方創生推進交付金事業 「“海辺エリア”への人と資源の集約化によるまちづくり ～コンパクトシティによるまちづくり～」 効果検証データシート

地域資源である“海”を活かし、海辺エリア（海の玄関口＝交流拠点“渚の駅”たてやまから半径3km圏内）への資源の集約を進め、海辺エリアをまちの陸路・海路の拠点と
 目的：し、『海辺エリアのさらなる魅力向上』⇒『交流人口の増加』⇒『まちの賑わい創出』⇒『しごとの創出』⇒『人の流れ』の好循環の流れを生み、地域の稼ぐ力と地域価値の向上を図り、地域の再生・経済活性化により、人口減少の歯止めを目指す。

事業No.	事業概要	H30担当課	事業費	事務局案			総合計画審議会委員による意見 (事務局案について)
				KPI (重要業績評価指標)	事業の評価	今後の方針	○賛成・良かった点 ●反対・良くなかった点 ☆改善策・前向きな提案 ◆疑問・質問
7	《恋人の聖地事業》 ①PR費・ビジネス化支援・年間負担金 ●NPO法人地域活性化支援センターの認定を受けた市内3カ所の「恋人の聖地」を題材に、市内外に対するPRを行うとともに、「恋人の聖地」を活用した商品開発に要する経費の一部を補助し、事業者の自立的な事業の発展等を目指した。	企画課	【執行額】 ①1,651,780円 ②2,100,000円 (合計) 3,751,780円 【補助対象額】 3,751,780円 (補助率：1/2) 【交付金充当額】 1,875,890円	【内部評価】 ・非常に有効であった 【理由・説明】 ・『館山市「恋人の聖地」活用支援事業補助金』については、1ヶ月弱という短い募集期間だったが、市内事業者から10件の応募があり、うち8件を採択。本補助金の活用により、新商品や体験メニューが生み出され、「恋人の聖地」ブランドが行政主導の観光PRにとどまらず、地域の稼ぐ手段に寄与する結果となった。 ・ガイドブック「わたしだけの たてやまぶら散歩」については、配架した店舗、訪れた観光客の双方から好評いただいております。店舗からは「お客さんが次にどこへ行こうか決める際に役に立つようだ」といった声を聞いている。 ・「#わたしだけの館山 インスタグラムフォトコンテスト」については、投稿数が800件を超え、受賞者からも「今後も館山に来て魅力を発信したい」といったコメントをいただいている。	【今後の方針】 ・事業の継続 【理由・説明】 ・本事業は、館山の地域資源を再発見し内外に発信するとともに、「恋人の聖地」を活用しながら新たな魅力を創出できていると考えられる。今後も、観光を切り口とした少子化対策、既存の観光資源を有効活用した魅力ある観光拠点づくり、効果的な情報発信等による取組を継続し、交流人口の増加を目指していく。	☆事業成果がわかりにくいので、発信と具体的なストーリー性が欲しい。 ☆国内に多数ある他の恋人の聖地とタイアップした企画はできないか。 ☆市内在住者のカップリングに利用できないか。 ☆広域での観光産業への取組みに力を入れてほしい。	
	《恋人の聖地事業》 ②東京湾フェリー活用事業 ●「恋人の聖地」を活用した交流人口の増加を目指すため、宿泊・滞在型観光推進協議会（構成団体：安房地域3市1町及び富津市）や株式会社東京湾フェリーと連携し、恋人の聖地企画イベントを実施した。	観光みなと課		【内部評価】 ・非常に有効であった 【理由・説明】 ・サイクリングファミツアーでは、参加者の反応も良く、台湾のサイクリングイベント参加や現地旅行会社等セールス等のアドバイスを受け、台湾でのサイクリングイベント参加や現地旅行会社へセールスを実施。その結果、台湾の旅行会社がツアー造成の下見に訪れた。今後もツアー造成の下見が予定されており、台湾の旅行会社のサイクリング等ツアー実施が期待される。 ・さまざまな観光資源を組合せたツアーを実施することにより、南房総地域の魅力がより一層増し、観光客の宿泊滞在の長時間化やリピーターの増加に繋がることが期待される。	【今後の方針】 ・事業の継続 【理由・説明】 ・本事業は、館山市はもとより、南房総地域の自然・歴史・文化・グルメ等の観光資源を組合せ、ブラッシュアップし、魅力を情報発信していくことで、更なる知名度の向上及び交流人口の拡大を目指していく。	☆広域連携は重要であるが、事業の成果・分析・公表をすること。 ☆B. B. BASEと東京湾フェリーで連携してサイクリストをターゲットとしてはどうか。 ☆サイクリストターゲットの海外プロモーションを行ってはどうか。	

【館山市】平成30年度地方創生推進交付金事業 「“海辺エリア”への人と資源の集約化によるまちづくり ～コンパクトシティによるまちづくり～」 効果検証データシート

地域資源である“海”を活かし、海辺エリア（海の玄関口＝交流拠点“渚の駅”たてやまから半径3km圏内）への資源の集約を進め、海辺エリアをまちの陸路・海路の拠点と目的：し、『海辺エリアのさらなる魅力向上』⇒『交流人口の増加』⇒『まちの賑わい創出』⇒『しごとの創出』⇒『人の流れ』の好循環の流れを生み、地域の稼ぐ力と地域価値の向上を図り、地域の再生・経済活性化により、人口減少の歯止めを目指す。

事業No.	事業概要	H30担当課	事業費	事務局案			総合計画審議会委員による意見 (事務局案について)
				KPI (重要業績評価指標)	事業の評価	今後の方針	○賛成・良かった点 ●反対・良くなかった点 ☆改善策・前向きな提案 ◆疑問・質問
8	《海辺の賑わい創出事業》 ①海岸活性化プロジェクト ●館山市の海岸の利活用による観光振興を目指し、「美と健康」をテーマに新たなライフスタイルを提案するイベント「北条海岸BEACHマーケット」を、実施主体の自立的運営を図るため、「館山市海岸活性化プロジェクト推進協議会」への補助により実施した。 ②海まちフェスタ ●館山湾を活用した海辺のまちづくりイベント「たてやま海まちフェスタ」を同実行委員会への委託により実施する予定だったが、荒天により中止となった。	観光みなと課	【執行額】 ①895,333円 ②517,862円 ③100,000円 (合計) 1,513,195円 【補助対象額】 1,513,195円 (補助率：1/2) 【交付金充当額】 756,597円		【内部評価】 ・非常に有効であった 【理由・説明】 ・海岸活性化プロジェクト事業で開催している『北条海岸BEACHマーケット』は、地域外の集客を目的としたカフェやお店のPRの場として期待されるようになったことから、出店ブースも80を超え、より集客力が強まった。その結果、最高で4,500人の来場者があり、北条海岸の魅力をより引き立たせることができた。	【今後の方針】 ・事業の継続 【理由・説明】 ・海岸活性化プロジェクト事業で開催している『北条海岸BEACHマーケット』は、海に囲まれた南房総の開放的な空間、そして自然の癒しという独自性を「美と健康」という観点から追求する「観光」イベントであり、地域内だけではなく地域外からの来訪者の増加を目指すとともに、2019年度はさらなる発展を目指し、都心部へのアピールや地域内の団体との連携を強めていく。	○ビーチマーケットは賑わい創出という点で成果を上げている。 ○海まちフェスタは館山ならではのイベントとして欠かせない。 ○とても魅力的なイベントとして定着し始めている。将来性に期待。 ☆都市部からの誘客手段としてアピールできたらよい。 ☆天候の影響が大きく難しい。
	《海辺の賑わい創出事業》 ③オーシャンフェスタ ●北条海岸を会場に、アウトリガーカヌーやスタンドアップパドル(SUP)等、子どもから大人まで気軽に楽しめる海のスポーツイベント「オーシャンフェスタ館山」を同実行委員会への補助により実施した。	スポーツ課		【内部評価】 ・非常に有効であった 【理由・説明】 ・オーシャンフェスタ館山は、子どもから大人まで海を楽しめるイベントとして、平成30年度で12回目となり、来場者が1,000人前後になる大きなイベントとして確立されている。 ・本イベントは「競技」だけではなく、「海における安全教育」や「協賛企業による出店・販売」を行い、選手だけではなく参加者全員が楽しめるように企画構成されており、実行委員会には館山サーフクラブ所属の大学生も参加し、人材育成なども同時に行っている。 ・開催時期を夏の海水浴シーズン前に行うことにより、水難事故予防にもつなげている。	【今後の方針】 ・事業の継続 【理由・説明】 ・本イベントは、館山の海の魅力を活かしながら、「海における安全教育」、「人材育成」、「地域活性化」、「スポーツ推進」などを行いつつ、観光振興、海辺のまちづくりの推進など多方面に寄与している。引き続き本イベントを実施することで、生涯スポーツの推進による健康の保持増進や体力向上、スポーツ観光による交流人口の拡大による地域経済の活性化につなげていきたい。	○オーシャンフェスタは館山ならではのイベントとして欠かせない。 ☆天候の影響が大きく難しい。	

【館山市】平成30年度地方創生推進交付金事業 「“海辺エリア”への人と資源の集約化によるまちづくり ～コンパクトシティによるまちづくり～」 効果検証データシート

地域資源である“海”を活かし、海辺エリア（海の玄関口＝交流拠点“渚の駅”たてやまから半径3km圏内）への資源の集約を進め、海辺エリアをまちの陸路・海路の拠点と目的とし、『海辺エリアのさらなる魅力向上』⇒『交流人口の増加』⇒『まちの賑わい創出』⇒『しごとの創出』⇒『人の流れ』の好循環の流れを生み、地域の稼ぐ力と地域価値の向上を図り、地域の再生・経済活性化により、人口減少の歯止めを目指す。

事業No.	事業概要	H30担当課	事業費	事務局案			総合計画審議会委員による意見 (事務局案について)
				KPI (重要業績評価指標)	事業の評価	今後の方針	
9	<p>《海を活かした雇用創出事業》</p> <p>①企業・起業支援 ●市内において起業する個人に対して、事業所等の開設に要する経費等の一部を補助し、産業の振興を図った。</p> <p>②企業誘致トップセールス ●市内経済の発展及び雇用の場の確保を図るため、企業誘致の実現に向けたトップセールスを実施した。 ※すべて一般財源による対応</p>	雇用商工課	<p>【執行額】 1,994,000円</p> <p>【補助対象額】 1,994,000円</p> <p>【交付金充当額】 997,000円</p>	<p>《KPI》 企業誘致件数</p> <p>【基準値】(H27) 0件</p> <p>【目標値】(R2) 2件(+2件)</p> <p>【実績値】(H30) 0件</p> <p>【達成率】(実績/目標) 0.0%</p>	<p>【内部評価】 ・相当程度有効であった</p> <p>【理由・説明】 ・起業時の支援を実施することにより、起業のタイミングに悩む起業予定者に対する後押しができた。 ・移住者が市内で起業することで市内経済の発展に寄与し、雇用の場の創出につながった。 ・業種に拘らず幅広く交渉することを念頭に置き、主に都内で開催される企業交流会等で参加企業に接触を続けた結果、館山に興味を抱く企業が館山を絡めた事業モデルの構築を模索する等の成果は生まれた。</p>	<p>【今後の方針】 ・事業の継続</p> <p>【理由・説明】 ・空洞化が進む中心市街地等の問題に対し、起業者を増やすことがリノベーションまちづくりの推進にも繋がることから、起業者に対する支援を継続していく。 ・企業誘致に即効性は期待せず、自治体としての信用を積み重ねる取り組みや、既に地域に目を向けている企業に対して手厚い誘致活動の実施を中心としつつ、その他都内の企業などへの接触は随時行っていく。</p>	<p>○賛成・良かった点 ●反対・良くなかった点 ☆改善策・前向きな提案 ◆疑問・質問</p> <p>☆既存事業者のニーズに合った活性化・支援策を練る必要がある。 ☆食のまちづくり計画などの整合性のある連携事業が必要。 ☆KPIの指標に企業誘致件数を設定しているが、目標の達成は難しいので、企業・起業支援事業の補助件数や起業に伴う雇用者数を指標にすべきではないか。 ☆北条海岸の空き店舗・空き家にセンスある事業者を誘致できないか。 ●企業誘致が0件というのは残念。良い手法を考え出すべき。 ◆企業誘致トップセールスは一般財源対応とのことなので、この執行額は①企業・起業支援の費用ということか。 ◆29年度に実施したコンサルの委託事業(約350万円)の結果は出なかったが、その際の内容はフィードバックは30年度にどう活かされたか知りたい。 ◆トップセールスはどのような方針で、どういう企業を対象に、何を売り込み、手応えはどうか。今後の企業誘致につながる可能性はあるのか。</p>

【館山市】平成30年度地方創生推進交付金事業 「“海辺エリア”への人と資源の集約化によるまちづくり ～コンパクトシティによるまちづくり～」 効果検証データシート

地域資源である“海”を活かし、海辺エリア（海の玄関口＝交流拠点“渚の駅”たてやまから半径3km圏内）への資源の集約を進め、海辺エリアをまちの陸路・海路の拠点と目的とし、『海辺エリアのさらなる魅力向上』⇒『交流人口の増加』⇒『まちの賑わい創出』⇒『しごとの創出』⇒『人の流れ』の好循環の流れを生み、地域の稼ぐ力と地域価値の向上を図り、地域の再生・経済活性化により、人口減少の歯止めを目指す。

事業No.	事業概要	H30担当課	事業費	事務局案			総合計画審議会委員による意見 (事務局案について)
				KPI (重要業績評価指標)	事業の評価	今後の方針	
10	<p>《海の魅力による移住定住施策》</p> <p>①移住支援 ●移住・定住者の増加による地域の活性化を図るため、都市部からの移住希望者に対する相談業務をNPO法人おせっ会への委託により実施した。 ●移住・定住者の増加による地域の活性化を図るため、「JOIN移住・交流&地域おこしフェア」への出展等を実施した。</p> <p>②空き施設情報管理・移住施策イベント ●移住・定住促進事業の更なる推進のため、移住相談業務を行うNPO法人おせっ会への委託により、体験ツアーの実施や空き家バンク制度の周知を図った。</p> <p>③地元企業採用力向上対策 ●雇用のミスマッチの解消に繋げるため、「南房総のお仕事さがしin東京」を開催した。 ※一般財源による対応 ●地元事業者の人材採用力向上のため、南房総地域の企業経営者・人事担当者を対象に、採用市場の現状や採用成功の秘訣を学ぶためのセミナーを開催した。</p>	雇用商工課	<p>【執行額】 5,005,120円</p> <p>【補助対象額】 5,005,120円</p> <p>【交付金充当額】 2,502,560円</p>	<p>《KPI》 移住者数</p> <p>【基準値】(H27) 58人</p> <p>【目標値】(R2) 60人</p> <p>【実績値】(H30) 49人</p> <p>【達成率】(実績/目標) 81.7%</p> <p>※H30末時点での目標値(60人)に対する実績値(49人)の割合</p> <p>【達成率】 49.3%</p> <p>※5年間の増加分の目標値(300人)に対するH30末時点での増加分の実績値(148人)の割合</p>	<p>【内部評価】 ・非常に有効であった</p> <p>【理由・説明】 ・移住相談業務を実施し、328件(窓口：258件、イベント：70件)の相談を受け、19世帯・49人(おせっ会把握数)の移住が実現した。 ・既移住者と移住希望者の交流会を実施することで、移住希望者は情報収集だけでなく移住前からコミュニティが形成されるため、交流会参加者が後日再訪問する等、館山移住のハードルを下げる事ができた。既移住者にとっても定期的に交流会に参加し関わりを持つことで、相談しやすい状況や新たな取り組みなどを生み出すきっかけ作りにもなり、“住んでからを考えるまち”として満足度アップに貢献した。 ・企業向けセミナーを実施し、地域企業の魅力・発信力を向上させ、求職者が求める企業情報を発信できる状況を作り出したことで、地域住民や移住者の職業選択の幅が広がる取り組みとなった。</p>	<p>【今後の方針】 ・事業の継続</p> <p>【理由・説明】 ・前年度と比較すると、相談件数は増加したが移住完了件数・移住者数は減少している結果となっている。移住相談者ごとに移住実行のタイミングが異なるため、各年度ごとの相談件数が同年度の移住完了件数に直接影響するものではないと考えている。ただし、移住相談件数が多くなれば将来的に移住者は増加していくものと考えられる。 ・令和元年度も引き続き移住相談業務を実施するとともに、移住ツアー、イベント等の実施、情報発信を継続していく。</p>	<p>○賛成・良かった点 ●反対・良くなかった点 ☆改善策・前向きな提案 ◆疑問・質問</p> <p>☆移住希望者の求める受入体制や、現役世代が暮らせる環境づくりが大切。 ☆海の魅力というより総合的な館山の魅力アップが必要。 ☆子育て世代をターゲットとした時、教育・子育て環境が他より良くなければならない。 ☆コワーキングスペースの整備やサテライトオフィスの誘致も必要。 ☆首都圏からの二拠点居住地として理想的なようなので、地の利を宣伝してほしい。 ☆首都圏に住む在住外国人にも二拠点居住地として南房総は魅力的であり、プロモーションの価値あり。 ☆空き家バンクをもっと活性化すべき。登録件数が少なすぎて機能していない。</p>